

378. 接地抵抗値と接地線

解釈の規定により施設する接地工事は、保護装置の確実動作などを目的として施す接地工事その他の若干の例外を除いて、A種接地工事、B種接地工事、C種接地工事およびD種接地工事の4種類

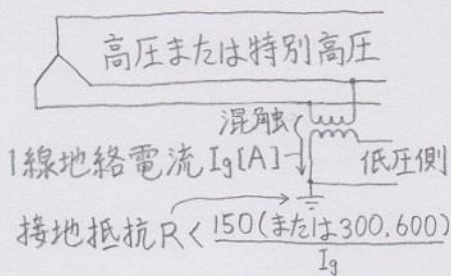
〈接地抵抗値〉

接地工事の種類	接地抵抗値		
A種接地工事	10Ω以下		
B種接地工事	接地工事を施す変圧器の種類	当該変圧器の高圧側または特別高圧側の電路と低圧側の電路との混触により、低圧電路の対地電圧が150Vを超えた場合に、自動的に高圧または特別高圧の電路を遮断する装置を設ける場合の遮断時間	接地抵抗値[Ω]
	下記以外の場合		$150/I_g$
	高圧または35000V以下の特別高圧の電路と低圧電路を結合するもの	1秒を超え2秒以下	$300/I_g$
C種接地工事		1秒以下	$600/I_g$
C種接地工事	10Ω以下(低圧電路において、当該電路に地絡を生じた時に0.5秒以内に電路を自動遮断する場合500Ω)		
D種接地工事	100Ω以下(上記()内に該当する場合500Ω)		

※ I_g は当該変圧器の高圧側または特別高圧側の電路の1線地絡電流[A]

・B種接地工事の接地抵抗値

・C種、D種接地工事の接地抵抗値を500Ω以下とする事ができる場合

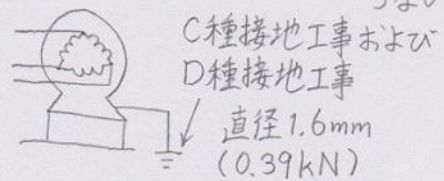
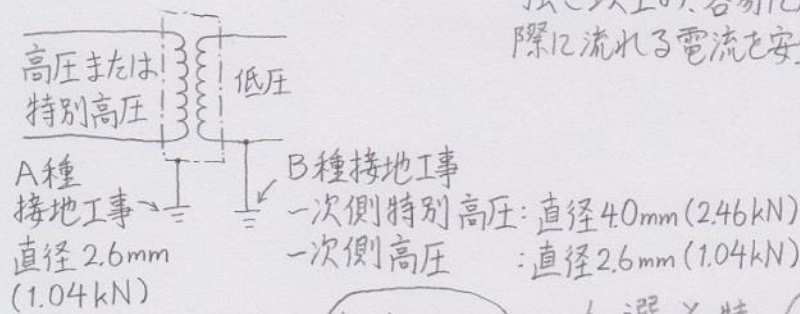


地絡故障が生じた時、0.5秒以内に自動遮断



〈接地線〉: 接地箇所と接地極を結ぶ導体

・下図に示す太さ以上の軟銅線または()内に示す引張強さ以上の、容易に腐食しにくい金属線であって、故障の際に流れる電流を安全に通する事ができる物でなければならない



接地抵抗値はまあ覚えやすそうだけど、線地線はちょっと...

特にA種接地工事とB種接地工事... 選択問題ではあるんだけど...

接地線の軟銅線の太さや引張強さは暗記しておかないと

